

観光で復興支援を

代表取締役 澤元教哲

私が副会長をつとめる遠江四十
九薬師奉賛会では「観光で東北復
興支援」を企画したところ三四名
が参加、私も九月二十九日から二泊
三日で同行した。岩手県一関まで
東海道、東北新幹線を乗り継ぎ、そ
の先はバスでの移動となった。

世界遺産の中尊寺金色堂や天台
宗の名刹毛越寺では悠長な現地の
寺ガイドについて参拝、改めて歴
史の深さに感銘しながら宿泊先へ
向かった。

3 年が過ぎた今、車窓から見え
る国道や気仙沼の市街地、特に沿
岸部には建物は少なく跡地には緑
の草原が目についた。しかし、中心
部やホテルの近くには復興商店街
が出来て飲食店が賑わいを見せて
いた。

二日目は朝一番で復旧した三陸
鉄道南リアス線に乘車した。運転
手に女性ガイド付きという一両電

車だ。数え切れないほどのトンネルを通
過しながら車窓からはリアス式海岸が続
き絶景だった。降車後は再びバス移動、大
船度市、陸前高田市、気仙沼市へと南下し
た。途中、陸前高田市では嵩上げ工事の土
砂を運ぶ大規模なベルトコンベアーが空
中を何本も走り、まるで未来都市を思わ
せる光景だった。このため「奇跡の一本杉」
は遠くから眺めるのみになった。同じ被災
地でも復興の早さが違う事に驚いた。



前浜マリンセンター

今日の昼食は今年 9 月に完成した気仙沼
市の「前浜マリンセンター」である。この

マリンセンターは今回の震災で全壊、流
失した。

被災後、地域の住民から「皆で集まる集會
所がほしい」という声があったが行政か
らの支援は望めなかったそうだ。

そんな時にルーテル教会と（公社）シャ
ンティ国際ボランティア会が中心に企業、
団体、個人から支援を受け完成したとい
う。私は異教徒が力を合わせて支援が出
来る事に非常に感動した。改めて宗教の
目的は世界平和、人類平和であることが
理解出来た。

入口にある慰霊碑の前でご供養を終え
て、昼食は弁当の他に「ちゃんちゃん焼き」
という地元料理を食し、地元の「大谷大漁
唄い込み」が披露され我々も参加して楽
しい時間を過ごした。この唄い込みは地
元での各家庭での祝い事で盛んに唄われ
るそうだ。

また、少年野球チーム「大谷ビッグウエ
ーブ」に贈ったグラウンドのネットを見学
し、代表の子供達に募金を渡した。

マリンセンターを後に南三陸町で被災
した防災庁舎跡地で被災者の方のご供養
をした。赤茶けた鉄骨だけが残り改めて
あの日のビデオが頭に浮かび津波の脅威

感じた。そして2日目はよくテレビに出るホテル観洋。海岸線にあるこのホテルも被災したが運良く全壊せず既に完全営業をしていた。修学旅行生も大勢宿泊していた。

最終日は松島の五大堂、瑞巖寺へ参拝、ここは大小の小島があるので家屋流失のような大きな被害はなかったようだ。

寺の境内では塩水の影響で多くの大木が枯れたそう。土産店も一階売り場は浸水したものの現在は平常営業している。

昼食後、バスはさらに南下して福島県の県境、亘理郡山元町にある徳本寺を参拝した。ここには(公社)シャンテイ国際ボランティア会山元事務所があった。(公社)シャンテイ国際ボランティア会では移動図書館で仮設住宅を巡回、本を届けながら仮設に住民と「お茶のみ会」の活動をしているそう。黄色と白の移動図書館車の評判は良いようだ。

徳本寺住職の早坂文明師はSVAの常任理事を務めている方で、兼務の寺はすべてが流され、当時の様子をプロジェクトター等を使い詳しく語ってくれた。ここでも改めて現場の苦難の多いことに驚いた。位牌堂には奇跡的に見つかったご本尊

様(観音様)をはじめ一家で数名亡くなった仏さまや未だ不明の遺骨等が安置されていた。



徳本寺住職 早坂文明師

私が三年前に現地に行った時はいたるところに倒壊した家屋や自動車の残骸がふれ、がれきも手つかずの状況だった。3年過ぎてがれきはきれいに片付けられていたが、まだまだ復興しているような気配は感じられない。

今回はバスガイドさんが津波に流されたビール工場の缶ビールを拾いに行った事、知人の体験談などテレビや新聞ではわからない事を話してくれたのが大変印

象に残った。

また、「現場での写真撮影には気をつけてほしい」と一言も、「皆様には東北に来てもらい、たくさんさんの買い物をしていただけ事、それが一番の支援ですよ、財布はからっぽにして帰って下さいよ」と名調子のガイドは東北なまりで涙と笑いを誘った。

参加者は「観光で復興支援」に答えてバスが止まるたびにお土産を買い求め、大荷物宅急便で送っていた。

心配された天気は3日間とも寒くもなく秋晴れ、無事遠征出来たのもお薬師さまのお陰かと南無の合掌。

私達は震災から3年半もするとつい忘れがちだ。「石の上にも三年」と言うが仮設住宅の住民には我慢と体力の限界ではないだろうか。仮設住宅の住民に直接に話は聞けなかった。我が身であつたらどうだろうか。

「忘れないで東北」「東北に寄り添って」のスローガンが各支援団体から発信されている。私も今一度この震災の原点、復興とは何かを考えながら、都会の夜景に複雑な思いを写しながら帰路についた。

「領収証」

日本テンプレヴァン(株)井上拓郎

「領収証の取扱について」

去る8月末に私がある宗派の教区講習会の講師を務めさせていただきました。今回は、そこでお話しました税務調査に関連して、領収証の取扱についてお話しします。

宗教法人では収益事業をおこなっていない場合のほうが圧倒的に多く、個人の所得税を除いては、法人税などは無縁だと思います。この場合、税務調査では領収証と出金を確認できる帳簿（通帳等も含む）の付け合せ作業をおこなうと思います。この作業の際に、法人の支出に相応しく無いものについては、個人で支出するべきものと判断されることがあります（法人で支出するものであっても）。この場合、個人の所得とみなして所得税の申告額の修正を指摘されます。こういったことにならない為に正しい領収証の取付と正しい帳簿の記入が漏れなくおこなう事が重要となります。

また領収証は金銭等の受領の証明書類として発行されるもので、単なる受取証書としてだけではなく、取引そのものを裏付ける重要書類として、その存在意義

を発揮する為、その領収証がどういった取引に支出したのかを記録することが重要です。何にどういう目的で支出したのかを説明できなければなりません。

重要書類として位置づけられる領収証ですが、実は具体的に「こうでなければならぬ」と国で定められているものはありません。一般的な要件は、宛名、日付、金額、取引内容、発行者名（住所、お店の名前など）などが記載されている必要があります。ただし、これらの一部でも欠けているものは領収証として認められない、というわけではありません。

「具体的な領収証の内容について①」

一、宛名を訂正した領収証

領収書の宛名が空白であったり、上様であったり、訂正されたものであったりすることよくあります。この場合、領収書や帳簿の信頼性が疑われる場合がありますので、極力避けた方が無難です。しかし税務調査等では、証憑、帳簿その他の全体の信頼性を総合的に判断されるので、ケースバイケースといえますが、領収書だけの瑕疵により、その領収書が無効であると判断されることはよほど稀な場合（全く公私の区別がついていない場合等や悪質な場合）と思います。なお、

立替払いなどで宛名が異なっている領収書については、勝手に宛名を直したりするよりも、そのような宛名になった状況をその領収書に付して説明できるようにした方がいいでしょう。

二、レシート

スーパーやコンビニで文具、書籍を購入することがあります。カウンターの入金で、レジ係に領収書をもらいにいくこともあります。このような場合、レシートで代用できます。（小額なものであれば大丈夫だと思います。）

三、領収書にメモする

飲食、接待等で経費が発生することがあります。これらは、交際費か会議費か判断としない場合も多いです。後日、経理担当者が勘定科目を確定しやすいように、接待目的、相手先、人員等をメモしておきます。このメモ等を記録しておくことが、税務調査時等の信憑性などに関係してきますので、煩わしい事ではありますが、怠らない様にしていただいた方が、後々の為になります。

領収証の項目で続きの4、領収証の無効時、5、上様領収証は有効か？につきましては、次号に掲載したいと思っています。次号は来年の「心ゆたかに1月号」掲載予定です。

山門の上棟式

浜松市法永寺様・瑞生寺様

まだ暑い八月三〇日に東区の法永寺様で四脚門の上棟が行われました。夕方総代さんにも参加していただき、住職による上棟式を行い、参列者もご焼香をあげ工事の安全と無事を祈りました。完成予定は十月末日を予定しております。



瑞生寺様（中区）でも十月十日に四脚門の上棟式を行いました。四脚門といっても実際には六本柱があり、中央の二本の親柱と四方を囲む控柱四本の構造です。少し小雨もありましたが、順調に工事は進みました。瑞生寺様は年内完成で工事を進めます。



地鎮式 浜松市延命寺様・庚申寺様

良い天気恵まれ穏やかな青空の下、十月十一日に延命寺様と庚申寺様で地鎮式が行われました。

延命寺様（北区三ヶ日町）では本堂・位牌堂・書院新築工事をさせていただけます。来年の一月に本堂の上棟式を予定で、現在加工作業をしております。



庚申寺様（浜北区）では書院・庫裡新築工事の地鎮式が、総代さんも参加していただき行いました。風もなく秋晴れの中、ご住職による読経が響き渡りました。

完成までの間ご迷惑をおかけしますが、両ご寺院の工事が滞りなく無事に終わることを願っております。